

科名 血液内科
 対象疾患名 再発・難治性の多発性骨髄腫
 プロトコール名 DBd 初回

Rp	形態	ルート	薬品名	投与量	時刻・コメント	1	2	...	4	5	...	8	9	...	11	12	...	15	...	21
1	点滴注	メイン	生理食塩液	500mL	ルートキーブ 残破薬可	↓						↓								↓
2	点滴注	側管	デキササート注	16.5mg	30分かけて	↓						↓								↓
			生理食塩液	50mL	ダラザレックス投与1-3時間前															
3	点滴注	側管	ダラザレックス	16mg/kg	50mL/時→100mL/時 →150mL/時→200mL/時 投与開始1-3時間前に前投薬を 内服 総量を1000mlとする。 フィルター付ルート(JY-PF340P52)を使用	↓														
			生理食塩液	1000mL																
4	点滴注	側管	ダラザレックス	16mg/kg	50mL/時→100mL/時 →150mL/時→200mL/時 投与開始1-3時間前に前投薬を内服 総量を500mLとする。 フィルター付ルート(JY-PF340P52)を使用							↓								
			生理食塩液	500mL																
5	点滴注	側管	ダラザレックス	16mg/kg	100mL/時→150mL/時→200mL/時 投与開始1-3時間前に前投薬を内服 総量を500mLとする。 フィルター付ルート(JY-PF340P52)を使用															↓
			生理食塩液	500mL																
6	皮下注		ボルテゾミブ	1.3mg/m ²	ダラザレックス投与後	↓			↓			↓				↓				
			生理食塩液	1.2mL																
	経口		デキサメサゾン	20mg/body			↓		↓	↓			↓		↓	↓				(↓)

★1クール=21日

～MEMO～

催吐リスク2(10%以上30%未満)

〈デキサメサゾン〉総投与量として、週80mg/bodyを投与。

75歳を超える、又は過少体重(BMI:18.5kg/m²未満)の患者にはデキサメサゾンを20mg/週で投与してもよく、ダラザレックス投与前に投与する。

1-3クール目のday15、及び9クール目のday1のデキサメサゾンの投与は医師の判断で実施してもよい

〈ボルテゾミブ〉

皮下投与で注射部位反応を発現した場合に、静脈内投与に変更可。

皮下投与の場合、**ボルテゾミブ**は1Vあたり1.2mLの生理食塩液で溶解し、必要量を採取する。

〈ダラザレックス〉

初回投与前に不規則抗体の測定を行うこと。

室内光下にて室温のもと、希釈液は投与時間も含め15時間以内に投与すること。

本剤の希釈液を投与する際は、ハイレンジフリーで蛋白結合性の低いホリエーテルスルホン製のインラインフィルター(ホリサイズ0.2μm)を用いて投与すること。

また、ホリウレタン、ホリアンゲン、ホリ塩化ビニル、ホリアロピレン又はホリエフェン製でフロレギュレーターを備えた投与セットを用いること。(ルート名: JY-PF340P52)

慢性閉塞性肺疾患若しくは気管支喘息のある患者又はそれらの既往歴のある患者には、本剤の投与後処置として気管支拡張薬及び吸入ステロイド薬の投与を考慮。

《infusion reaction対策》

・infusion reaction軽減のため、ダラザレックス投与1-3時間前に解熱鎮痛剤および抗ヒスタミン剤を投与すること。

・初回投与開始時から3時間以内にinfusion reactionが認められなかった場合、2回目以降より総量を500mLにすることができる。

・ダラザレックスは初回50mL/時の投与速度で開始し、infusion reactionが認められなかった場合は、患者の状態を観察しながら、

希釈後の総投与量及び投与速度を以下のように変更することができる。ただし、投与速度の上限は200mL/時とする。

初回投与：希釈後総量 1000mL/(0～1時間)50mL/時 →(1～2時間)100mL/時 →(2～3時間)150mL/時 →(3時間以降)200mL/時

2回目投与：希釈後総量 500mL/(0～1時間)50mL/時 →(1～2時間)100mL/時 →(2～3時間)150mL/時 →(3時間以降)200mL/時

3回目投与以降：希釈後総量 500mL/(0～1時間)100mL/時 →(1～2時間)150mL/時 →(2時間以降)200mL/時